

(令和3年08月10日)

< ワンポイントレッスン (実践) >

< 膠着状態の期間 >

マーケットは、膠着状態が続いています。今迄は、「夏の高校野球の時期は閑散なマーケット」と言われて来ました。さて膠着状態、方向感を持った動きに入るのにどの程度のタームを要していたのか? 「収束度指数・中期2」で過去20年を振り返ってみました。

(日経平均・週足)



All Copyright © ゴールデン・チャート社

日経平均・週足でみて、もっとも長かったのは2019年6月14日(週末日付、以下同じ)21,116.89円から10月11日の21,798.87円までの18週間。日々終値ベースで高値22,098.84円⇔20,261.04円のレンジ内の動きでした。次いで、07年4月20日から同8月10日までの17週間。そして、04年11月19日から05年2月18日までの14週間。ただ、この時は04年10月8日にシグナルが出て2週間、その後に、僅かですが基準レンジから離れる期間(4週間)があったので、その間を含めれば20週間となります。

マーケットの動きが小さいと利を得るのは難解、「休むのも相場」。直近の収束度は、行き過ぎのレンジを離れて来ましたが、この先はどうか、まだフォワードテスト中です。

(了)